

## 発表課題 2 4

### 「森林・林業の専門高校における取組み」

#### ～秩父農工科学高校・森林科学科の取組み～

埼玉県立秩父農工科学高等学校

森林科学科 3年 松澤 留汐

3年 小久保直哉

### 1 課題を取り上げた背景

森林科学科は森林を中心にした広範囲の知識や技術を学ぶ学科です。埼玉県では唯一の学科ですが、全国的にも数校しか設置されていないユニークな学科です。高校3年間、様々な森林林業体験を通じて成長した記録をご覧ください。

### 2 具体的な取組み

秩父農工科学高校、長瀬演習林は40697㎡植栽されている樹種はヒノキです。植林されたばかりの苗木から30年生のもの約5000本です。

共有林をS56に演習林として50年間の借用契約をしています。年間5回の実習では、ヒノキの植栽・下刈り・間伐・枝打ちなどの森林保育作業を実施し、経済林として優良材となることを期待して手入れをしています。また、森林管理体験を通じて環境保全機能の重要性についても学んでいます。



森林科学の授業では、学校農場にて苗木の生産管理について学んでいます。ヒノキ・アカマツ・スギ・コナラ・クヌギ・トチノキ・ブナなど約1000本管理しています。また、山仕事に必要なナタや鎌などの手入れや、チェーンソーの使用方法についても学んでいます。



林産物利用の授業では、木材の利用法について、物理的・化学的・組織的な面で木材の特徴を学び、木工や実験等の体験を通じて学んでいます。また、授業で作製した木工品は文化祭等で販売実習を行います。



課題研究の授業は、12年生で学んだことの応用として、森林・林業の分野から興味関心のあることを見つけ課題を設定し自ら取り組む授業です。たとえば、演習林のヒノキ間伐材を用いてベンチの製作・炭焼き・ツリーハウス製作などに取り組んでいます。



森林管理のスペシャリストから学ぶ授業として(株)東京チェンソーズの青木亮輔氏をお招きして実施しました。間伐や枝打ちの技術・チェーンソーワークさらに現在の林業の現状などの講義を受けることが出来ました。



地域に根ざした森林科学科の取組みとして、小学生と高校生徒のふれあい体験を実施しています。高校生が先生役となり授業で学んできたことを伝えながらシジウカラの巣箱製作を実施しました。また、昨年は埼玉県道路公社様との連携で、道路脇の竹を活用してミニ門松を製作し、安全運転を呼び掛けながら配布しました。



### 3 森林科学科で3年間学んだ生徒の意見・感想

○森林科学科は県内唯一の学科で歴史ある林業科からの伝統を受け継いでいます。私の家では、祖父、父、ともに秩父農工卒業で私は三代目です。日本や世界の森林をいろいろな角度から学び、森林や地球環境を考える、とても幅広く先進的な勉強ができました。演習林実習では森林を健康にするだけでなく、自分の心身も健康になれたような気がします。(3年男子)

○森林や環境に関する知識や土木・測量技術・木材加工の技術が普通高校にはない恵まれた環境で勉強できました。森林・林業のスペシャリストとして知識や技術を身に付けることが出来る魅力的な学科です。年5回の演習林実習は山仕事というなきついイメージでしたが、女子でも、無理なく楽しく学べる事が出来ました。(3年女子)